

第 47 回 NBRP シンポジウム 日本植物生理学会・NBRP 特別企画”

植物研究を支えるモデル植物のリソース技術と作物への展開” パネル展示

イネ
(遺伝研)



広義キク属
(広島大)



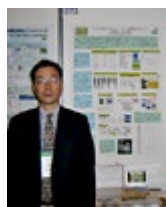
アサガオ
(九大)



藻類
(環境研)



オオムギ
(岡山大)



農業生物資
源研究所



コムギ
(京大)



シロイヌナズナ
(理研 BRC)



ミヤコグサ・ダイズ
(宮崎大)



* シンポジウムでは、全ての演者の方の写真を撮ることができませんでした。ここにお詫び申し上げます。

シンポジウム

日 時： 2006 年 3 月 21 日(火・祝) 13:30 - 17:15

場 所： 筑波大学第三学群棟 2 階 3A204 号室(Z 会場)

オーガナイザー： 福田裕穂 (東京大学)、小林正智 (理化学研究所バイオリソースセンター)

13:30 あいさつ
文部科学省ライフサイエンス課

13:35 NBRP について
森脇和郎 (理化学研究所バイオリソースセンター)

セッション 1 『植物研究を支えるリソース: 中核的拠点整備プログラムより』

座長: 小林正智 (理化学研究所バイオリソースセンター)

- 13:50 S-1 『シロイヌナズナの全遺伝子機能解明に貢献するリソース』
小林正智 (理化学研究所バイオリソースセンター)
- 14:10 S-2 『マメ科のモデル、ミヤコグサが作物研究にもたらすもの』
明石良 (宮崎大学)
- 14:30 S-3 『オオムギの多様性を捉えるリソース整備』
佐藤和広 (岡山大学)
- 14:50 S-4 『進化・多様性研究と機能ゲノム研究を支えるイネ遺伝資源』
倉田のり (国立遺伝学研究所)
- 15:00 S-5 『コムギ-複雑系ゲノム解析のモデル植物-』
萩原保成 (京都府立大学)

セッション 2 『植物研究の新しい潮流: 世界の動きと日本の取り組み』

座長: 明石良 (宮崎大学)

- 15:10 S-6 『折り返し点の 2010 年プロジェクトとゲノムを基盤とする作物研究へのアプローチ』
篠崎一雄 (理化学研究所バイオリソースセンター)
- 15:40 S-7 『ナス科のモデル、microtom のリソース整備の展望』
江面浩 (筑波大学)

セッション 3 『研究を支える技術: 基盤技術の開発と普及』

座長: 小林正智 (理化学研究所バイオリソースセンター)

- 16:10 S-8 『アブラナ科植物のゲノム情報の収集と利用』
鳴坂義弘 (東京学芸大学)
- 16:30 S-9 『イネゲノムリソースセンター(RGRC)におけるアレイ解析支援』
長村吉晃 (農業生物資源研究所)
- S-10
- 16:50 『完全長 cDNA による総合的機能付加 - フォックスハンティング法を用いた有用遺伝子探索』
松井南 (理化学研究所バイオリソースセンター)

おわりに: 福田裕穂 (東京大学)

バイオリソース（研究用生物材料）の情報公開に関するアンケート集計

（於日本植物生理学会・NBRP 特別企画 2006 年 3 月）

アンケートの目的 バイオリソース情報センターでは利用者のニーズに即した情報公開を目指しています。
利用者である皆様の声を是非お聞かせください。

総数 49 名

● あなたは研究用生物材料を使っていますか

はい 44 いいえ 5

（はい）と答えた方は[A]、（いいえ）と答えた方は [B] に進んでください。

A-1： その材料はどのようなものですか。差し支えなければ教えてください。

例：イネの栽培系統

シロイヌナズナ	16	トマト（Micro Tom）	3	その他*	各 1
イネ	9	アサガオ	2		
シアノバクテリア	5	ダイズ	2		
ミヤコグサ	4	タバコ	2		

*その他 内訳

バレイショ、オオムギ、ナタネ、サトウキビ、ヒメツリガネゴケ、ルピナス、緑藻類、藍藻類、珪藻、
クラミドモナス、ドナリエラ、動物細胞、車軸藻、イースト

A-2： その材料に関する「情報」の入手先を教えてください。（複数回答可）

自分で作成したものなので特に情報を得る必要はなかった	7
他の研究者などから直接教えてもらった	29
論文その他の出版物から（PubMed を含む）	17
インターネットのリソース関連サイトから	19

A-3: その材料に関する情報は十分に得られたと思いますか。

はい	30	いいえ	12	回答なし	2
----	----	-----	----	------	---

A-4: あなたにとって生物材料に関するどのような情報が重要でしょうか。(複数回答可)

扱い方に関する情報	28	入手方法に関する情報	19
その生物材料を使って得られた研究成果に関する情報	30	その生物材料に関連する付加情報: 具体的には(※)	5

*内訳

- 表現型, 挿入部位, コピー数など
- 変異体リソースの整備
- ゲノム配列 ● ゲノムデータベース, 2 次代謝, シグナル伝達, 抗体 ● ゲノム情報など
- 形質転換法がわからず困った

A-5: ナショナルバイオリソースプロジェクト情報整備プログラムについて感想またはご希望、コメントをお聞かせください。

- 今後さらに整備が進むことを楽しみにしています。
- 新しい情報の収集とともに蓄積された情報の保管および利用に努力されることを望みます。
- 作物をいろいろ、講習会など頻繁に開いてほしい。
- 文献データベースのようなものが整備されているとありがたい。
- 農水省との連携もお願いします。
- 多様なリソース情報の収集をお願いしたい。
- これまで外国に頼らざるを得なかった、頑張っていたきたい。
- なるべく統合された形で情報が検索できるとよい。
- 宣伝活動をもっとされるとよいと思う
- ヒメツリガネゴケも扱ってほしい。
- リンク先を多く。
- 疑問: 国外に材料を送付していただくときに制限はあるのでしょうか? ■

B-1 将来、研究用に生物材料を使う予定はありますか？

あ る	2	な い	2	回答なし	1
--------	---	--------	---	------	---

(ある)と答えた方のみ次の質問に教えてください。

B-2 生物材料に関するどのような情報があると便利ですか。(複数回答可)

扱い方に関する情報	1	入手方法に関する情報	3
その生物材料を使って得られた研究成果に関する情報	1		
その生物材料に関連する付加情報:具体的には(	)0		
その他	0		

そのほか生物材料の情報公開に関するご希望をお聞かせください。

(無し)■

ご協力ありがとうございました！